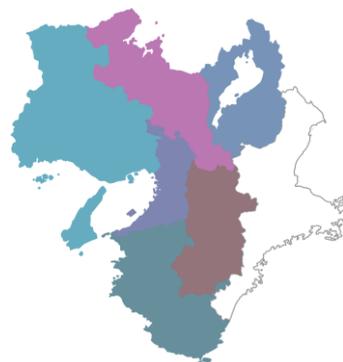


近畿



191 号



巻頭言	河野 猛
第 8 回近畿本部協賛団体セミナー	協賛団体強化委員会
淀川左岸線(2 期)海老江 JCT 現場見学	建設部会
循環型資源としての食用ココロギについて	電気電子部会
琵琶湖疏水と水力発電	情報工学部会

目次

巻頭言

近畿本部生物工学部会の設立	河野 猛	3
---------------	------	---

近畿本部/支部 報告・予告

理事会だより (2022-No.6)	藪内生死	4
2022 年度 第 6 回近畿本部役員会議事録 (案)	田岡直規	7
大阪勧業展/診断士フェスタ 2022	技術士活性化委員会	10
防災・減災シンポジウム (第 16 回 災害対策セミナー)	防災支援委員会	12
第 8 回近畿本部協賛団体セミナー	協賛団体強化委員会	16
令和 4 年度堺科学教育フェスタ	科学技術支援委員会	20

部会/活動グループ 報告・予告

CFD による検討と実機による検証で実現させたサーバ用冷却システム	衛生工学部会	23
淀川左岸線 (2 期) 海老江 JCT 現場見学	建設部会	24
道路における雨水対策/上下水道と水質分析機器	上下水道部会	26
持続可能な発展のための「地域社会と人とのトランジション」	環境研究会	28
水素エネルギー利用/PET ボトル市場/サプライチェーンシステム/産廃の処理	技術士業務研究会	30
熱電変換素子/金属 3D プリンティング	機械システム部会	32
デジタル現場改善	経営工学部会	34
人的資本経営/イノベーション MS/用語のルーツを知る	ISO 研究会	36
化学技術力の発揮 シリカキセロゲル複合断熱材/CCUSC	化学部会	40
見学会 すまうら水産有限責任事業組合・須磨海浜水族館	農林水産部会	42
循環型資源としての食用コオロギについて	電気電子部会	44
琵琶湖疏水と水力発電/テレワークコミュニケーション/RPA の開発	情報工学部会	46
アクアポリン農業	関西食品技術士センター	49

コラム

ゼロエネハウス実験のサイエンスアゴラ出展と兵庫県での中学特別授業	加藤直樹	50
----------------------------------	------	----

編集室だより

特集原稿募集中「技術士事務所経営」	「きんき」編集室	43
本号の表紙「パキラの花」	佐伯英子	55
編集後記	木藤 茂	55
編集室員募集中	「きんき」編集室	55
5-6 月行事予定	「きんき」編集室	56

近畿本部生物工学部会の設立

～活動と展望～



近畿本部生物工学部会 部会長
河野 猛（生物工学/総監）

昨年、2022年10月22日に近畿本部生物工学部会を設立いたしました。生物工学部門は1988年に第18番目の部門として新設され、現在、全国の技術士会会員数（正会員、準会員）が約350名、その内、近畿本部会員数（同）は約60名の比較的新しい小規模の部会です。そのため、若い会員の皆さんが企業内技術士として多く活躍されています。

生物工学という、日頃、聞きなれない専門分野ですので少し詳細に説明いたします。技術士試験の専門分野は、平成30年までは、「細胞遺伝子工学」「生物化学工学」「生物環境工学」に分類されていましたが、令和元年からは、「生物機能工学」「生物プロセス工学」に再編されました。

「生物機能工学」は、生物の持つ高い機能を解析し、工学諸分野の観点から生物にアプローチし、生物機能を改良したり、デザインし直して産業化に、また、「生物プロセス工学」は、一連の生物プロセスやそのシステムを理解してバイオの力を利用することで産業化に繋げる技術で、ともに、ヒト、動物のQOL向上、食の安全・安心、環境の維持に貢献できる領域です。身の回りの製品で言うと、発酵食品（味噌、酒、乳製品等）、医薬品（抗生物質、バイオ医薬品等）、医療（免疫療法、再生医療等製品、臨床診断薬等）、化粧品、肥料、微生物環境浄化（バイオレメディエーション）等が、皆さんの周りで存在しています。

統括本部生物工学部会は、「いつ来ても楽しい生物工学部会 “Biotechnology is Always Happy”」をモットーに、地域本部や地域の部会としての役割を明確にしながらいかにコラボレーションするという姿勢で、近畿本部生物工学部会としましても、技術士として業務を創出する事、その業務をこなせる人材の育成に努めて行く所存です。また、「生物」を基軸として、環境部門、化学部門、農業部門、森林部門、水産部門、情報工学部門の皆様とのコラボレーションも、近い将来、実現出来たらと考えております。

昨今の、感染症、気候変動、食糧事情、ヘルスケアへの対策といった社会課題を解決し、経済成長を図るうえで、各国は「バイオエコノミー」を重要視しており、戦略的な取り組みを展開・加速しています。このような状況のなか、我が国はバイオエコノミー社会を実現するという目標を掲げ、「バイオテクノロジー」のためではなく「バイオエコノミー」形成の観点からバイオ戦略を策定し（1）バイオ関連市場の拡大（2）バイオコミュニティの形成（3）データ基盤の整備の三つが柱となっています。また、2025年の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、まさに、これらの社会課題を捉えたものと言えます。

このような大きなテーマに対しても、「技術士」としてのプライドとプロフェッショナルリテニーを持って、少しでもかかわる事が出来れば技術者冥利に尽きると日頃から考えている次第です。